

授業概要

世界各地に見られる多様な文化を比較・考察し、それらのあいだの類似性・異質性を探求しながら「文化とは何か？」についての深い理解を目指す。「文化」にアプローチするにはいくつもの方法があるが、本コースではさまざまな文化人類学者により伝統的に取り上げられてきたテーマに焦点を当てて講義する。くわえて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に扱っていきたい。そこで授業では講義にくわえ、グループワークやディスカッションも取り入れる。さらには、教室での学びとは別に「グループ・プロジェクト」および「博物館プロジェクト」という、学生自らが主体的におこなう課題も設けられている。こうした参加型の学びをとおして、みなさん一人ひとりに「大学で学問することの意味」について深く自問自答していただければ幸いである。

授業計画

*履修者数・授業の進捗状況等により、下記のスケジュール・内容を変更することがある。

第 1 回	コース・ガイダンス：本コースをはじめるとあって
第 2 回	イントロダクション：文化人類学とは？
第 3 回	「フィールドワーク」と「民族誌」
第 4 回	文化人類学の代表的な理論 1
第 5 回	文化人類学の代表的な理論 2
第 6 回	生業と社会構造
第 7 回	婚姻・家族・親族
第 8 回	グループ・プロジェクト発表会（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 9 回	性とジェンダー
第 10 回	宗教と儀礼
第 11 回	神話と民話
第 12 回	芸術
第 13 回	「文化」とは？
第 14 回	博物館プロジェクト発表会：前半（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 15 回	博物館プロジェクト発表会：後半（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 文化人類学の代表的な理論について説明できる。
2. 文化人類学を特徴づける相対主義の立場から、世界の文化的多様性について理解できる。
3. 文化人類学の視点をを用いて、私たちの社会が抱える諸問題について自分なりの意見を述べることができる。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、自らの責任を果たすこと。ここでいう「自らの責任」とは授業に出席するだけでなく、積極的に関与・発言し、さらには課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、自ら取りに来るものである。なお、課題で不正（盗用、「コピペ」など）をした場合、たとえそれが初回であっても、即刻、本コースの履修を「不可」とし、厳重に処罰するので十分に注意すること。

予習・復習

その日に扱うテーマについて自分なりの理解や問題意識を持って授業に臨むこと。そのためには、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。授業後は学習した内容についてクラスメートと議論し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題をとおして学んだことをもとに、現代社会が抱える諸問題について自ら考える契機としていただきたい。何よりも、旺盛な知的好奇心を育むことが求められる。

評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しない場合、成績評価の対象とはならない（自動的に「不可」となる）。①授業への積極的な関与（発言・質疑応答など）10%、②グループ・プロジェクト（発表・提出を含む）20%、③博物館プロジェクト（発表・提出を含む）20%、④定期試験 50%

*不正は初回であっても厳重に処罰する。

テキスト

- ・教科書名：『よくわかる文化人類学 第2版』
- ・著者名：綾部恒雄・桑山敬己（編）
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年（ISBN）：2010年（978-4-623-05696-5）